

★ 開催日時、開催場所

令和元年 9月12日(木) 豊田産業文化センター内とよた男女共同参画センターにおいて、一般学科教員 山口比砂による公開講座「夏目漱石『三四郎』の世界 — 群像劇として読む青春小説—」が開催されました。

★ 講座全体の説明

一般の方々を対象として開催された本講座では、東京帝国大学に連なる人々の群像劇として『三四郎』を読解することで、フィクションという手法を用いて社会の諸相を映す漱石の創作の工夫を検証しました。今回は、豊田市だけでなく、みよし市、名古屋市在住の方からの申し込みもあり、13名の受講生の方々が、漱石文学の世界を満喫されました。毎年続けて受講して下さっている方もあり、漱石文学の軌跡を辿る貴重なひと時となりました。

★ 講座内容の説明

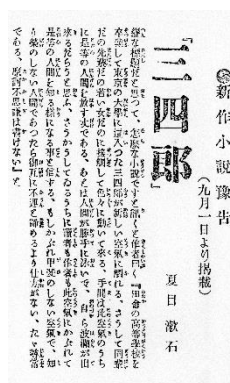
講座の前半では、まず、朝日新聞掲載『三四郎』予告文を踏まえて、上京する青年・三四郎の喜劇性と物語における役割を確認しました。その上で、読者が知り得ない東京帝国大学の内部や学界の実態を、漱石が多角的に描き出そうとしていることを検証しました。講座の後半では、当時の女学生をめぐる状況を踏まえて、男を翻弄する女性として造形された美禰子という女性が、自立して生きる道を断念せざるを得ない苦悩を背負っていることを検証しました。『三四郎』が、登場人物たちの多様な生き様を、当時の社会状況を背景に浮かび上がるよう、工夫して構築された物語であることを検証することで、改めて「物語」の持つ力を認識する講座となりました。

★まとめ

受講生の方々は、一般的な三四郎を主人公と位置付ける従来の読み方とは異なる、アプローチに強い関心を示していらっしゃいました。時代背景を踏まえて多角的な視点から物語を読み解き、小説の新たな魅力を発見していただく、有意義な公開講座となりました。



公開講座の受講風景



朝日新聞掲載の予告



『三四郎』初版本